(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-240683
(P2012-240683A)
(43)公開日　平成24年12月10日(2012.12.10)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 85/16	(2006.01)	B65D	85/16		3B200
B65D 77/24	(2006.01)	B65D	77/24		3E064
B65D 75/58	(2006.01)	B65D	75/58		3E067
B65D 33/00	(2006.01)	B65D	33/00	A	3E068
A61F 13/49	(2006.01)	A41B	13/02	H	

審査請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 14 頁）　最終頁に続く

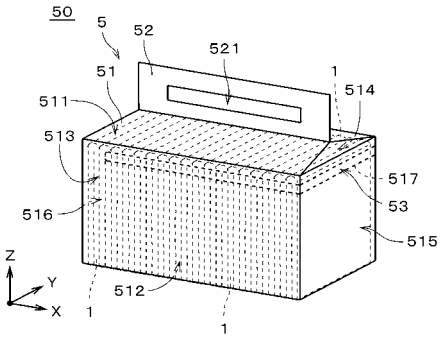
(21)出願番号　特願2011-109159 (P2011-109159)
(22)出願日　平成23年5月16日 (2011.5.16)

(71)出願人　000110044
株式会社リブドゥコーポレーション
愛媛県四国中央市金田町半田乙４５番地の２
(74)代理人　100110847
弁理士　松阪　正弘
(74)代理人　100136526
弁理士　田中　勉
(74)代理人　100136755
弁理士　井田　正道
(72)発明者　三宅　浩史
徳島県美馬郡つるぎ町貞光字小山北８９－１　株式会社リブドゥコーポレーション徳島貞光工場内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】包装体および使い捨ておむつ

(57)【要約】
【課題】テープタイプの使い捨ておむつにおいて、着用者に適した接続部の止着位置を容易に把握する。
【解決手段】包装体５０では、包装袋５が脆弱線５１７に沿って破断されて包装袋５の一部が周囲の部位から切り離されることにより、当該包装袋５の一部が、着用者の胴囲測定用の測定テープ５３となる。測定テープ５３には、複数の胴囲を示す複数の第１目印が設けられる。包装袋５に収容されるテープタイプの使い捨ておむつでは、着用者の背側の肌に接する後方部の左右両側に一対の接続部が設けられ、接続部は、着用者の腹側の肌に接する前方部の外面の被止着部に止着される。被止着部には、複数の第１目印にそれぞれ対応して接続部の止着位置を指示する第２目印が設けられる。測定テープ５３の第１目印および被止着部の第２目印により、着用者に適した接続部の止着位置を容易に把握することができる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
使い捨ておむつが包装袋に収容された包装体であって、
包装シート部材にて形成された包装袋と、
前記包装袋に収容された複数の使い捨ておむつと、
を備え、
前記複数の使い捨ておむつがそれぞれ、
前方部、股下部および後方部を長手方向に順に有する略シート状の本体部と、
前記後方部の両側部に取り付けられ、前記前方部の外面に止着される一対の接続部と、
を備え、
前記包装袋が脆弱線に沿って破断されて前記包装袋の一部が周囲の部位から切り離されることにより、前記包装袋の前記一部が、着用者の胴囲測定用の測定テープとなり、
前記測定テープに、複数の胴囲をそれぞれ示す複数の第１目印が設けられ、
前記前方部の前記外面、または、前記一対の接続部に、前記複数の第１目印にそれぞれ対応して前記一対の接続部の止着位置を指示する複数対の第２目印が設けられることを特徴とする包装体。
【請求項２】
請求項１に記載の包装体であって、
前記複数対の第２目印が、前記前方部の前記外面に設けられることを特徴とする包装体。
【請求項３】
請求項１または２に記載の包装体であって、
前記測定テープが前記周囲の部位から切り離されることにより、前記包装袋に、前記複数の使い捨ておむつの取り出し用の開口が形成されることを特徴とする包装体。
【請求項４】
請求項１または２のいずれかに記載の包装体であって、
前記脆弱線が、前記包装袋の持ち手部に設けられることを特徴とする包装体。
【請求項５】
請求項１ないし４のいずれかに記載の包装体であって、
前記測定テープが、前記周囲の部位よりも厚いことを特徴とする包装体。
【請求項６】
使い捨ておむつであって、
前方部、股下部および後方部を長手方向に順に有する略シート状の本体部と、
前記後方部の両側部に取り付けられ、前記前方部の外面に止着される一対の接続部と、
を備え、
前記前方部の前記外面において、複数の胴囲にそれぞれ対応する前記一対の接続部の止着位置に、前記複数の胴囲の値を示す数値が設けられることを特徴とする使い捨ておむつ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、使い捨ておむつが包装袋に収容された包装体、および、使い捨ておむつに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来より、使い捨ておむつや使い捨ておむつの内側に取り付けられる補助吸収具（例えば、尿取りパッド）等の吸収性物品では、着用者の様々な体型に対応できるように、Ｓサイズ、Ｍサイズ、Ｌサイズ等、複数のサイズが用意されている。これらの吸収性物品は、通常、多数個（例えば、数十個）が積層された状態で包装袋に収容されて販売されており、包装袋には、吸収性物品のサイズ、および、当該サイズの吸収性物品が適合する着用者

の体重等が表示されている。
【０００３】
特許文献１の吸収性物品用の包装袋では、ミシン目により周囲部分から切り離し可能なサイズ確認部が設けられる。サイズ確認部には、吸収性物品が適合する着用者のウエスト周りや脚周りの寸法範囲が実寸にて表示される。吸収性物品の使用者は、サイズ確認部を着用者のウエスト周り等にあてがうことにより、着用者に適合する吸収性物品のサイズを確認することができる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００９－２６９６２２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ところで、吸収性物品の１つとして、いわゆるテープタイプの使い捨ておむつが使用されている。テープタイプの使い捨ておむつが着用者に装着される際には、着用者の背側に接する後方部の左右両側に設けられた一対の止着テープが、着用者の腹側に接する前方部の外面に止着される。
【０００６】
テープタイプの使い捨ておむつでは、止着テープを止着する位置により、使い捨ておむつの胴部開口の大きさが変化する。このため、着用者に適合するサイズの吸収性物品を装着する場合であっても、止着テープが適切な位置よりも左右方向の外側に止着されると、使い捨ておむつの胴部開口近傍の部位が着用者に密着せず、使い捨ておむつがずれてしまったり、胴部開口から排泄物が漏れるおそれがある。また、止着テープが適切な位置よりも内側に止着されると、着用者の胴部がきつく締め付けられてしまう。テープタイプの使い捨ておむつは、認知症の着用者や自力歩行が困難な着用者に使用されることが多く、このような着用者の中には、介護者等に止着テープの位置が不適切である旨の意思表示ができない人も存在する。
【０００７】
本発明は、上記課題に鑑みなされたものであり、テープタイプの使い捨ておむつにおいて、着用者に適した接続部の止着位置を容易に把握することを目的としている。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
請求項１に記載の発明は、使い捨ておむつが包装袋に収容された包装体であって、包装シート部材にて形成された包装袋と、前記包装袋に収容された複数の使い捨ておむつとを備え、前記複数の使い捨ておむつがそれぞれ、前方部、股下部および後方部を長手方向に順に有する略シート状の本体部と、前記後方部の両側部に取り付けられ、前記前方部の外面に止着される一対の接続部とを備え、前記包装袋が脆弱線に沿って破断されて前記包装袋の一部が周囲の部位から切り離されることにより、前記包装袋の前記一部が、着用者の胴囲測定用の測定テープとなり、前記測定テープに、複数の胴囲をそれぞれ示す複数の第１目印が設けられ、前記前方部の前記外面、または、前記一対の接続部に、前記複数の第１目印にそれぞれ対応して前記一対の接続部の止着位置を指示する複数対の第２目印が設けられる。
【０００９】
請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の包装体であって、前記複数対の第２目印が、前記前方部の前記外面に設けられる。
【００１０】
請求項３に記載の発明は、請求項１または２に記載の包装体であって、前記測定テープが前記周囲の部位から切り離されることにより、前記包装袋に、前記複数の使い捨ておむつの取り出し用の開口が形成される。

【００１１】
請求項４に記載の発明は、請求項１または２のいずれかに記載の包装体であって、前記脆弱線が、前記包装袋の持ち手部に設けられる。
【００１２】
請求項５に記載の発明は、請求項１ないし４のいずれかに記載の包装体であって、前記測定テープが、前記周囲の部位よりも厚い。
【００１３】
請求項６に記載の発明は、使い捨ておむつであって、前方部、股下部および後方部を長手方向に順に有する略シート状の本体部と、前記後方部の両側部に取り付けられ、前記前方部の外面に止着される一対の接続部とを備え、前記前方部の前記外面において、複数の胴囲にそれぞれ対応する前記一対の接続部の止着位置に、前記複数の胴囲の値を示す数値が設けられる。
【発明の効果】
【００１４】
本発明では、テープタイプの使い捨ておむつにおいて、着用者に適した接続部の止着位置を容易に把握することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】第１の実施の形態に係る包装体の斜視図である。
【図２】使い捨ておむつの平面図である。
【図３】使い捨ておむつの断面図である。
【図４】使い捨ておむつの斜視図である。
【図５】測定テープを示す図である。
【図６】測定テープを示す図である。
【図７】被止着部の拡大図である。
【図８】使い捨ておむつの斜視図である。
【図９】第２の実施の形態に係る包装体の斜視図である。
【図１０】第３の実施の形態に係る使い捨ておむつの斜視図である。
【図１１】第４の実施の形態に係る使い捨ておむつの斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１６】
図１は、本発明の第１の実施の形態に係る包装体５０を示す斜視図である。図１に示すように、包装体５０は、複数の使い捨ておむつ１が包装袋５に収容されたものであり、略直方体である。包装袋５は、非通気性の包装シート部材にて形成される。複数の使い捨ておむつ１は、折り畳まれた上で所定の積層方向（本実施の形態では、図１中のＸ方向）に積層され、当該積層方向に圧縮された状態で包装袋５に収容される。
【００１７】
包装袋５は、複数の使い捨ておむつ１を収容する袋状の部位である袋部５１、および、袋部５１と連続する持ち手部５２を備える。持ち手部５２は、袋部５１の上側（すなわち、（＋Ｚ）側）に位置する帯状の部位であり、持ち手部５２の左右方向（すなわち、Ｘ方向）のおよそ中央には持ち手開口５２１が形成されている。包装体５０の購入者等が持ち手部５２を持つ際には、購入者等の指が持ち手開口５２１に挿入され、持ち手開口５２１の上側の部位が把持される。
【００１８】
以下の説明では、袋部５１において、複数の使い捨ておむつ１の図１中における（＋Ｚ）側および（－Ｚ）側をそれぞれ覆う面を、上面５１１および下面５１２と呼ぶ。また、上面５１１と下面５１２とを接続する４つの側面のうち、複数の使い捨ておむつ１の（－Ｙ）側および（＋Ｙ）側をそれぞれ覆う面を、前面５１３および後面５１４と呼び、複数の使い捨ておむつ１の（＋Ｘ）側および（－Ｘ）側をそれぞれ覆う面を、第１側面５１５および第２側面５１６と呼ぶ。

【００１９】
包装袋５では、脆弱線５１７が、袋部５１の上部において前面５１３、第１側面５１５および後面５１４に亘って設けられる。本実施の形態では、脆弱線５１７は、断続的に形成された直線状の切れ目により形成されるミシン目である。脆弱線５１７は、包装袋５を形成する包装シート部材を貫通しておらず、包装シート部材は脆弱線５１７においても非通気性である。
【００２０】
脆弱線５１７は、略水平方向に延びる（すなわち、ＸＹ平面に略平行に延びる）２本の平行部、および、２本の平行部の両端部を接続する２つの接続部を有し、脆弱線５１７により囲まれる部位５３は、略水平方向に延びる帯状である。包装体５０では、包装袋５が脆弱線５１７に沿って破断され、包装袋５の一部である帯状の部位５３が周囲の部位から切り離される。これにより、包装袋５に複数の使い捨ておむつ１の取り出し用の開口が形成される。また、周囲の部位から切り離された帯状の部位５３は、後述するように、着用者の胴囲測定用の測定テープとなる。以下、帯状の部位５３を、「測定テープ５３」と呼ぶ。包装袋５では、測定テープ５３となる部位の内面に補強材が接合されており、測定テープ５３が周囲の部位よりも厚い。このため、測定テープ５３を周囲の部位から容易に切り離すことができる。
【００２１】
図２は、使い捨ておむつ１を広げた状態にて示す平面図である。図３は、使い捨ておむつ１を図２中に示すＡ－Ａの位置で長手方向（すなわち、図２中における上下方向）に垂直な面で切断した断面図である。図２では、装着時に着用者に接する側（すなわち、着用者側）の面を手前にして使い捨ておむつ１を描いている。
【００２２】
図２および図３に示すように、使い捨ておむつ１は、略シート状の本体部２、および、本体部２の両側部（すなわち、長手方向に垂直な左右方向の両側）上に配置されて本体部２の長手方向のおよそ全長に亘る一対のサイドシート３を備える。本体部２の図２中における上側の部位２０１および下側の部位２０３はそれぞれ、着用者の腹側および背側の肌に接する部位であり、以下の説明では、「前方部２０１」および「後方部２０３」と呼ぶ。また、前方部２０１と後方部２０３との間において前方部２０１および後方部２０３から連続するとともに着用者の股間部に対向する部位２０２を「股下部２０２」と呼ぶ。使い捨ておむつ１では、本体部２が前方部２０１、股下部２０２および後方部２０３を長手方向に順に有し、前方部２０１および後方部２０３の幅が、股下部２０２の幅よりも大きい。換言すれば、本体部２は、いわゆる砂時計型である。
【００２３】
使い捨ておむつ１は、後方部２０３の両側部に取り付けられた一対の接続部４をさらに備える。使い捨ておむつ１が着用者に装着される際には、本体部２の前方部２０１および後方部２０３をそれぞれ着用者の腹側および背側に当接させた状態で、一対の接続部４が、図４に示すように、前方部２０１の外面（すなわち、着用者に接する面とは反対側の面）の被止着部２６に止着されることにより、後方部２０３の両側部が前方部２０１の両側部に接続される。
【００２４】
図２および図３に示すように、本体部２は、透液性のトップシート２１、撥水性または不透液性のバックシート２３、および、トップシート２１とバックシート２３との間に配置された吸収コア２２を備える。図３では、図示の都合上、使い捨ておむつ１の各構成を厚さ方向に離して描いている。また、図２では、図の理解を容易にするために、吸収コア２２の輪郭を太破線にて描いている。図２に示すように、前方部２０１および後方部２０３における吸収コア２２の幅は、股下部２０２における吸収コア２２の幅よりも大きい。換言すれば、吸収コア２２は、いわゆる砂時計型である。
【００２５】
図４に示す被止着部２６は、バックシート２３の外面（すなわち、吸収コア２２（図２

および図３参照）と対向する面とは反対側の面）上に、平面視において吸収コア２２と重なるように接合される。被止着部２６は、バックシート２３上にホットメルト接着剤等により接合される面ファスナのループ部材であり、樹脂等により形成されたベースシート、および、ベースシートのバックシート２３に接合される面とは反対側の面に設けられる微細ループ構造を有する。微細ループ構造とは、多数の微細なループ要素の集合を意味する。

【００２６】

図３に示すように、トップシート２１は、吸収コア２２の周りにおいてホットメルト接着剤を介してバックシート２３に接合される。また、サイドシート３の左右方向の外側の部位は、バックシート２３のトップシート２１から露出する部位、および、トップシート２１の左右方向のエッジ近傍の部位に、長手方向の全長に亘ってホットメルト接着剤を介して接合される。サイドシート３は、サイドシート本体３１、および、サイドシート本体３１の左右方向の内縁部である自由端にホットメルト接着剤により接合されて長手方向に伸びる弾性部材３２ａを備える。

【００２７】

図２に示す本体部２の長手方向の両端部では、各サイドシート３の左右方向の内側の部位（すなわち、本体部２の左右方向の中心軸側の部位）が、トップシート２１の着用者側の面にホットメルト接着剤を介して接合される。また、図２および図３に示すように、本体部２の股下部２０２では、サイドシート３の左右方向の外縁近傍の部位において、長手方向に伸びる２本の弾性部材３２ｂが、サイドシート３とバックシート２３とに挟まれてホットメルト接着剤により接合されている。これらのホットメルト接着剤としては、ポリオレフィン系、ゴム系、酢酸ビニル系等のものが利用される。なお、トップシート２１とバックシート２３との接合やサイドシート３とトップシート２１との接合は、熱融着接合や超音波接合等により行われてもよい。

【００２８】

各サイドシート３では、サイドシート本体３１の長手方向の両端部の間（すなわち、長手方向の中央部）における内側の部位３１３が、トップシート２１（および他の構成）とは非接合とされており、弾性部材３２ａが収縮することにより、当該部位３１３が、図３に示すように、着用者に向かって立ち上がり、着用者の脚の付け根近傍に当接する側壁部（いわゆる、立体ギャザー）となる。また、弾性部材３２ｂが収縮することにより、サイドシート３およびバックシート２３が着用者側かつ内側に向かって立ち上がってレッグギャザーが形成され、使い捨ておむつ１の着用時に着用者の足の付け根近傍に密着する。

【００２９】

図２に示すように、本体部２の長手方向の両端部にはそれぞれ、トップシート２１とバックシート２３とに挟まれるとともに左右方向に伸びる３本の弾性部材２５が設けられる。使い捨ておむつ１では、伸張状態にてトップシート２１およびバックシート２３に接合された弾性部材２５が収縮することによりウエストギャザーが形成され、使い捨ておむつ１の着用時に本体部２が着用者の腰周りに密着する。使い捨ておむつ１では、弾性部材３２ａ，３２ｂ、並びに、弾性部材２５により本体部２が着用者に密着することにより、脚周りおよび腰周りからの尿等の漏出が防止される。

【００３０】

トップシート２１は、透液性のシート材料であり、着用者からの排泄物の水分を速やかに捕捉して吸収コア２２へと移動させる。トップシート２１は、例えば、表面を界面活性剤により親水処理した疎水性繊維（例えば、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、ポリアミド、ナイロン）にて形成された透液性の不織布であり、当該不織布として、例えば、ポイントボンド不織布やエアスルー不織布、スパンレース不織布、スパンボンド不織布が利用される。なお、トップシート２１として、セルロースやレーヨン、コットン等の親水性繊維により形成された不織布が利用されてもよい。

【００３１】

吸収コア２２は、粉砕したパルプ繊維やセルロース繊維等の親水性繊維に粒状の高吸収

性ポリマー（ＳＡＰ（Super Absorbent Polymer））や高吸収性ファイバー等の高吸収性材料を混合したものをティッシュペーパーや透液性不織布等により包み込んで形成され、トップシート２１を透過した水分を吸収して迅速に固定する。親水性繊維を包むティッシュペーパーや透液性不織布等は、親水性繊維および吸水性材料とホットメルト接着剤により接合されて、親水性繊維の型崩れ、および、吸水性材料の脱落（特に、吸水後における脱落）を防止する。本実施の形態では、吸収コア２２はパルプ繊維およびＳＡＰを含む。

【００３２】

バックシート２３としては、疎水性繊維にて形成された撥水性または不透液性の不織布（例えば、スパンボンド不織布やメルトブロー不織布、ＳＭＳ（スパンボンド・メルトブロー・スパンボンド）不織布）や、撥水性または不透液性のプラスチックフィルム、あるいは、これらの不織布とプラスチックフィルムとが積層された積層シートが利用され、バックシート２３に到達した排泄物の水分等が、本体部２の外側にしみ出すことが防止される。バックシート２３にプラスチックフィルムが利用される場合、使い捨ておむつ１のムレを防止して着用者の快適性を向上するという観点からは、透湿性（通気性）を有するプラスチックフィルムが利用されることが好ましい。

【００３３】

サイドシート本体３１としては、疎水性繊維にて形成された撥水性または不透液性の不織布（例えば、スパンボンド不織布やメルトブロー不織布、ＳＭＳ不織布）が利用される。弾性部材３２ａ，３２ｂ，２５としては、例えば、ポリウレタン糸、帯状のポリウレタンフィルム、糸状または帯状の天然ゴム等が利用され、本実施の形態では、ポリウレタン糸が各弾性部材として利用される。

【００３４】

図２に示すように、一対の接続部４はそれぞれ、本体部２の長手方向に配列されて左右方向に伸びる２つの止着テープ４１、および、２つの止着テープ４１の左右方向の内側（すなわち、本体部２側）に位置する略矩形の共通基部４２を備える。２つの止着テープ４１の構造および形状は同様であり、各止着テープ４１の左右方向の長さは、共通基部４２の本体部２から露出している部位の左右方向の長さよりも長い。

【００３５】

各接続部４では、２つの止着テープ４１のそれぞれが、左右方向に伸びるテープ状のテープ基部４４、および、テープ基部４４の一方の主面４４１（すなわち、図２中における手前側の面）上に設けられる止着部４３を備える。図２では、図の理解を容易にするために、止着部４３に平行斜線を付す。テープ基部４４の主面４４１は、使い捨ておむつ１を着用者に装着する際に、本体部２の前方部２０１の被止着部２６（図４参照）に対向して着用者側を向く面であり、以下、「テープ内面４４１」と呼ぶ。また、テープ基部４４の他方の主面４４２を、「テープ外面４４２」と呼ぶ。

【００３６】

２つの止着テープ４１のテープ基部４４、および、共通基部４２は不織布やプラスチックフィルム等により形成された１つの接続部シートの一部であり、２つのテープ基部４４はそれぞれ、共通基部４２から左右方向の外側（すなわち、本体部２とは反対側）に向かって突出する。また、共通基部４２の内端部（接続部シートの内端部でもある。）は、本体部２の後方部２０３においてサイドシート３とバックシート２３との間に挟まれて接合され、共通基部４２の内端部以外の部位は、本体部２から左右方向の外側に向かって突出する。

【００３７】

換言すれば、２つのテープ基部４４は、本体部２側にて連続する１つの接続部シートの一部であり、接続部シートにおける２つのテープ基部４４の接続部分である共通基部４２は、本体部２の側方のエッジから側方へとはみ出している。なお、トップシート２１（図２参照）の外縁がバックシート２３の外縁に比較的近い位置に位置している場合には、共通基部４２の内端部は、トップシート２１とバックシート２３との間に接合されてもよい。

【００３８】
止着部４３は、上述の被止着部２６に対して止着可能な面ファスナのフック部材であり、テープ基部４４のテープ内面４４１上にホットメルト接着剤等により接合される。止着部４３は、樹脂等により形成されたベースシート、および、ベースシートのテープ基部４４に接合される面とは反対側の面に設けられる微細フック構造を有する。微細フック構造は、多数の微細なフック要素の集合であり、被止着部２６の微細ループ構造と互いに係合する（すなわち、被止着部２６に対して接離自在に止着可能である。）。止着部４３は、テープ基部４４の幅方向（すなわち、本体部２の長手方向に一致する方向）の全体に亘って、テープ基部４４のテープ内面４４１上に設けられる。換言すれば、止着部４３は、テープ基部４４のテープ内面４４１を横断するように設けられる。
【００３９】
図５は、包装袋５において周囲の部位から切り離された測定テープ５３を示す図である。図５では、測定テープ５３の両端近傍の部位を示す。図５に示すように、測定テープ５３の一方の端部（図５中の左側の端部）には、複数の第１目印５３１が設けられ、他方の端部には、矢印５３２が設けられる。本実施の形態では、「太陽」「星」「月」の３種類の図形である第１目印５３１が設けられる。また、第１目印５３１および矢印５３２は、包装シート部材に印刷される。
【００４０】
使い捨ておむつ１を装着する際には、測定テープ５３が着用者の胴部に巻き付けられ、図６に示すように、矢印５３２が指し示す第１目印５３１が確認される。本実施の形態では、３つの第１目印５３１のうち、中央の「星」マークが矢印５３２により指し示される。複数の第１目印５３１は、複数の胴囲をそれぞれ示す。「星」マークは、図１に示す包装袋５内の使い捨ておむつ１が適合サイズである着用者の標準的な胴囲に対応する。したがって、図６のように矢印５３２により「星」マークが指し示された場合、着用者の胴周りは標準的な値であることが分かる。３つの第１目印５３１のうち、測定テープ５３の端部に最も近い「月」マークは、標準的な胴囲よりも大きい胴囲を示す。また、３つの第１目印５３１のうち、測定テープ５３の端部から最も離れた「太陽」マークは、標準的な胴囲よりも小さい胴囲を示す。
【００４１】
図７は、被止着部２６を拡大して示す図である。図７に示すように、被止着部２６には、複数の第１目印５３１にそれぞれ対応する複数対の第２目印２６１が設けられる。本実施の形態では、３種類の第１目印５３１にそれぞれ対応する３対の第２目印２６１が設けられる。各第２目印２６１は、上下方向に略平行に延びる直線、並びに、当該直線の上側および下側に配置される２つの図形要素を有する。当該２つの図形要素はそれぞれ、各第２目印２６１が対応する第１目印５３１と同形状である。第２目印２６１は、インクジェット印刷により、被止着部２６に印刷される。
【００４２】
複数の第２目印２６１はそれぞれ、一対の接続部４（図４参照）の被止着部２６に対する止着位置を指示する。図６に示すように、測定テープ５３による着用者の胴囲測定の結果、複数の第１目印５３１のうち「星」マークが指し示された場合、図８に示すように、一対の接続部４の各止着テープ４１が、被止着部２６上の複数対の第２目印２６１のうち「星」マークにより指示される止着位置に止着される。具体的には、各止着テープ４１の先端が、上下２つの「星」マークに挟まれた直線におよそ一致するように、止着テープ４１の止着部４３（図２参照）が被止着部２６に止着される。これにより、使い捨ておむつ１の胴部開口１１が、着用者の胴囲に合う適切な大きさとなる。
【００４３】
図５に示す測定テープ５３による胴囲測定の結果、複数の第１目印５３１のうち「太陽」マークが矢印５３２により指し示された場合、図８に示す各止着テープ４１は、複数対の第２目印２６１のうち「太陽」マークにより指示される止着位置に止着される。また、矢印５３２により「月」マークが指し示された場合、各止着テープ４１は、複数対の第２

目印２６１のうち「月」マークにより指示される止着位置に止着される。矢印５３２により、複数の第１目印５３１の間等のように第１目印５３１からずれた位置が指し示された場合には、矢印５３２が指し示す位置の両側に位置する２つの第１目印５３１を基準として矢印５３２のおよその位置を記憶し、対応する２つの第２目印２６１を基準として各止着テープ４１の先端の位置決めが行われた上で、一対の接続部４が被止着部２６に止着される。

【００４４】

以上に説明したように、包装体５０では、包装袋５が脆弱線５１７に沿って破断されて包装袋５の一部が周囲の部位から切り離されることにより、着用者の胴囲測定用の測定テープ５３を容易に入手することができる。また、測定テープ５３に、複数の胴囲を示す複数の第１目印５３１が設けられ、使い捨ておむつ１の被止着部２６に、複数の第１目印５３１にそれぞれ対応して一対の接続部４の止着位置を指示する複数対の第２目印２６１が設けられることにより、着用者に適した接続部４の止着位置を容易に把握することができる。

【００４５】

包装体５０では、前方部２０１の外面に位置する被止着部２６に、複数対の第２目印２６１が設けられることにより、接続部４を止着する際に、第２目印２６１の視認を容易とすることができる。また、包装袋５において、測定テープ５３を周囲の部位から切り離すことにより、使い捨ておむつ１の取り出し用の開口の形成と測定テープ５３の入手とを同時に行うことができる。

【００４６】

次に、本発明の第２の実施の形態に係る包装体について説明する。図９は、第２の実施の形態に係る包装体５０ａを示す斜視図である。包装体５０ａは、脆弱線５１７の位置が異なる点を除き、図１に示す包装体５０と同様の構成を有し、以下の説明では、対応する構成に同符号を付す。

【００４７】

包装体５０ａでは、脆弱線５１７が包装袋５の持ち手部５２の上端部に設けられる。脆弱線５１７は、持ち手部５２の（－Ｘ）側のエッジから（＋Ｘ）側のエッジ近傍まで持ち手部５２の上縁に略平行に延びる第１直線部、および、第１直線部の下側において持ち手部５２の（－Ｘ）側のエッジから（＋Ｘ）側のエッジまで（すなわち、Ｘ方向の全長に亘って）第１直線部に略平行に延びる第２直線部を有する。

【００４８】

包装体５０ａでは、包装袋５が脆弱線５１７の第２直線部に沿って破断され、持ち手部５２の上端部が周囲の部位から切り離される。そして、当該上端部が、脆弱線５１７の第１直線部に沿って（＋Ｘ）側の端部近傍まで破断され、（＋Ｘ）側の端部がつながった状態で（－Ｘ）側の上下に位置する２つの端部が離間するように広げられる。これにより、当該上端部が測定テープ５３となる。包装袋５では、持ち手部５２は袋部５１に比べて厚いため、測定テープ５３となる予定の持ち手部５２の上端部を、周囲の部位から容易に切り離すことができる。

【００４９】

次に、本発明の第３の実施の形態に係る包装体に収容される使い捨ておむつについて説明する。図１０は、第３の実施の形態に係る使い捨ておむつ１ａを示す斜視図である。図１０では、図４と同様に、接続部４が被止着部２６に止着された状態の使い捨ておむつ１ａを示す（図１１においても同様）。使い捨ておむつ１ａは、第２目印２６１の配置が異なる点を除き、図２ないし図４に示す使い捨ておむつ１とおよそ同様の構成を有し、以下の説明では、対応する構成に同符号を付す。

【００５０】

使い捨ておむつ１ａでは、一対の接続部４において、上側の左右一対の止着テープ４１のテープ外面４４２に、測定テープ５３の複数の第１目印５３１（図５参照）に対応する複数対の第２目印２６１が設けられ、下側の左右一対の止着テープ４１のテープ外面４４

２にも、複数の第１目印５３１に対応する複数対の第２目印２６１が設けられる。また、被止着部２６には、左右一対の第３目印２６２が設けられる。本実施の形態では、各止着テープ４１のテープ外面４４２に、「太陽」「星」「月」の３種類の第２目印２６１が設けられる。第２主面５１６は、止着テープ４１の先端側から「月」「星」「太陽」の順に配列される。また、各第３目印２６２は、上下方向に略平行に延びる直線である。第２目印２６１は、インクジェット印刷により止着テープ４１に印刷され、第３目印２６２は、インクジェット印刷により被止着部２６に印刷される。

【００５１】

一対の接続部４に設けられた複数対の第２目印２６１はそれぞれ、第１の実施の形態と同様に、一対の接続部４の被止着部２６に対する止着位置を指示する。具体的には、測定テープ５３による胴囲測定の結果、複数の第１目印５３１のうち一の第１目印５３１が矢印５３２（図５参照）により指し示された場合、当該第１目印５３１に対応する第２目印２６１が、被止着部２６上の第３目印２６２に重なるように、各止着テープ４１が被止着部２６に止着される。また、矢印５３２により、複数の第１目印５３１の間等のように第１目印５３１からずれた位置が指し示された場合には、矢印５３２が指し示す位置の両側に位置する２つの第１目印５３１を基準として矢印５３２のおよその位置を記憶し、対応する２つの第２目印２６１を基準として各止着テープ４１の位置決めが行われた上で、一対の接続部４が被止着部２６に止着される。

【００５２】

このように、使い捨ておむつ１ａでは、複数対の第２目印２６１が一対の止着部４３に設けられることにより、第１の実施の形態と同様に、着用者に適した接続部４の止着位置を容易に把握することができる。なお、使い捨ておむつ１ａでは、上側または下側の一対の止着テープ４１のみに第２目印２６１が設けられてもよい。使い捨ておむつ１ａが着用者に装着される際には、第２目印２６１が設けられた止着テープ４１が、第２目印２６１および第３目印２６２を基準として止着部４３に止着された後、第２目印２６１が設けられない止着テープ４１が、被止着部２６に止着される。上側または下側の一対の止着テープ４１のみに第２目印２６１が設けられる場合であっても、上記と同様に、着用者に適した接続部４の止着位置を容易に把握することができる。

【００５３】

次に、本発明の第４の実施の形態に係る使い捨ておむつについて説明する。図１１は、第４の実施の形態に係る使い捨ておむつ１ｂを示す斜視図である。使い捨ておむつ１ｂでは、被止着部２６において、図４に示す使い捨ておむつ１の第２目印２６１に代えて、複数の胴囲の値をそれぞれ示す数値を含む複数の第４目印２６３が設けられる。その他の構造は、図２ないし図４に示す使い捨ておむつ１とおよそ同様であり、以下の説明では、対応する構成に同符号を付す。

【００５４】

各第４目印２６３は、上下方向に略平行に延びる直線、並びに、当該直線の上側および下側に配置される数値を有し、当該数値は、各第４目印２６３に対応する胴囲を示す。各第４目印２６３は、当該第４目印２６３が示す胴囲に対応する止着テープ４１の止着位置に設けられる。換言すれば、複数対の第４目印２６３は、複数の胴囲にそれぞれ対応する一対の接続部４の止着位置に設けられる。本実施の形態では、「７０ｃｍ」「７５ｃｍ」「８０ｃｍ」の３種類の数値が、第４目印２６３の一部として、インクジェット印刷により被止着部２６に印刷される。

【００５５】

使い捨ておむつ１ｂが着用者に装着される際には、着用者の胴囲がメジャー等により予め測定され、一対の接続部４の各止着テープ４１の先端が、着用者の胴囲に対応する位置に一致するように、複数対の第４目印２６３を基準として、被止着部２６に止着される。例えば、着用者の胴囲が７５ｃｍである場合には、図１１に示すように、各止着テープ４１の先端が、「７５ｃｍ」という数値を含む第４目印２６３の直線に一致するように、一対の接続部４が被止着部２６に止着される。また、着用者の胴囲が、複数の第４目印２６

３に含まれる複数の数値のいずれにも一致しない場合には、複数対の第４目印２６３を基準として、各止着テープ４１の先端が、着用者の胴囲に対応する位置に位置するように（すなわち、第４目印２６３の直線部から左右方向にずれた位置に位置するように）、一対の接続部４が被止着部２６に止着される。

【００５６】

このように、使い捨ておむつ１ｂでは、被止着部２６に設けられた複数対の第４目印２６３がそれぞれ、胴囲の値を示す数値を含むことにより、第１の実施の形態と同様に、着用者に適した接続部４の止着位置を容易に把握することができる。使い捨ておむつ１ｂは、第１の実施の形態に係る包装体５０と同様に、複数積層された状態で包装袋に収容されて包装体となる。使い捨ておむつ１ｂの被止着部２６に対する止着位置は、上述のように、測定テープ５３（図５参照）を用いることなく容易に把握されるため、使い捨ておむつ１ｂが収容される包装袋は、一部が測定テープ５３となるものである必要はない。

【００５７】

以上、本発明の実施の形態について説明してきたが、本発明は上記実施の形態に限定されるものではなく、様々な変更が可能である。

【００５８】

包装袋５の脆弱線５１７は、必ずしもミシン目である必要はなく、例えば、周囲の部位に比べて強度が小さい溝（すなわち、包装シート部材を貫通しない連続する切り込み）であってもよい。測定テープ５３は、必要に応じて、包装袋５の様々な位置に設けられてよい。また、複数の測定テープ５３が、包装袋５に設けられてもよい。

【００５９】

複数の第１目印５３１は、上述のように、互いに形状が異なる複数の図形であってもよいが、例えば、互いに異なる複数の数字や文字であってもよく、あるいは、形状が同一、かつ、互いに色が異なる複数の図形等であってもよい（第２目印２６１および第３目印２６２においても同様）。

【００６０】

図４に示す使い捨ておむつ１では、各止着テープ４１の先端が、被止着部２６上の第２目印２６１に一致するように、一対の接続部４が被止着部２６に止着されるが、例えば、止着テープ４１のテープ基部４４が透明または半透明である場合、各止着テープ４１の止着部４３の左右方向のエッジをテープ基部４４を介して視認しつつ、当該エッジが第２目印２６１に一致するように、一対の接続部４が被止着部２６に止着されてもよい。テープ基部４４を介して止着部４３が視認できるのであれば、テープ基部４４が白色の樹脂材料等により形成され、止着部４３が白色以外の有色の樹脂材料等により形成されてもよい。

【００６１】

被止着部２６および接続部４の止着部４３は、必ずしも、面ファスナのループ部材およびフック部材である必要はなく、例えば、止着部４３が粘着層であり、被止着部２６が、止着部４３が接離自在に粘着可能なプラスチックフィルム等であってもよい。

【００６２】

上記実施形態および各変形例における構成は、相互に矛盾しない限り適宜組み合わされてよい。

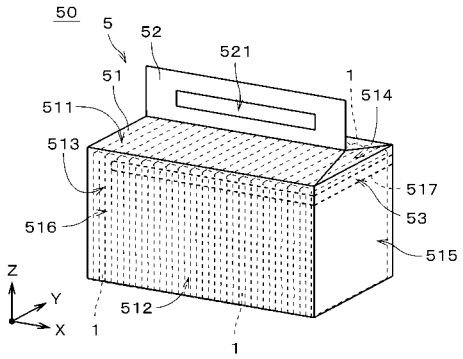
【符号の説明】

【００６３】

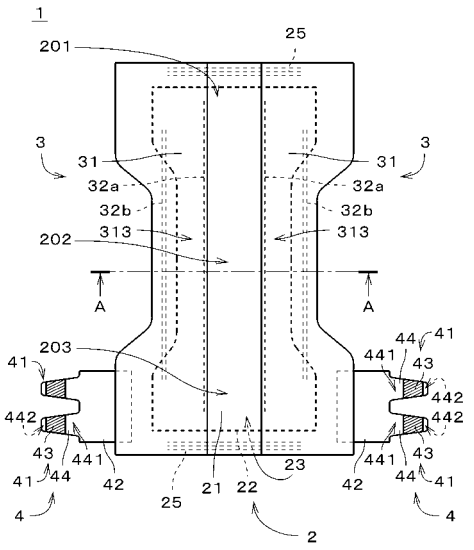
１，１ａ，１ｂ　使い捨ておむつ
２　本体部
４　接続部
５　包装袋
２６　被止着部
５０，５０ａ　包装体
５２　持ち手部
５３　測定テープ

２０１　前方部
２０２　股下部
２０３　後方部
２６１　第２目印
２６３　第４目印
５１７　脆弱線
５３１　第１目印

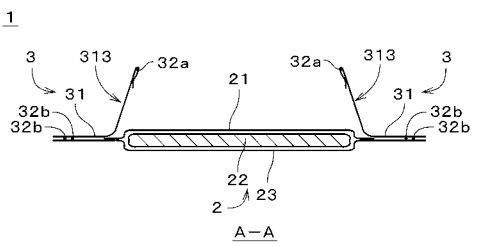
【図１】



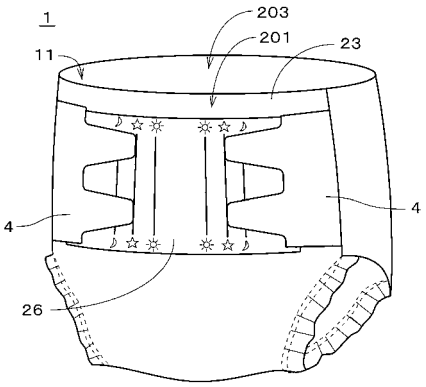
【図２】



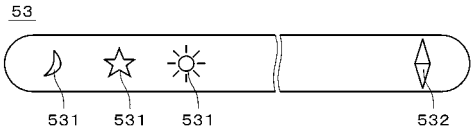
【図３】



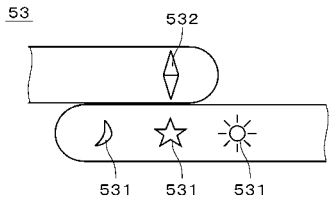
【図４】



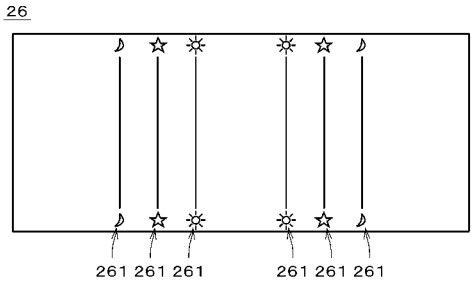
【図５】



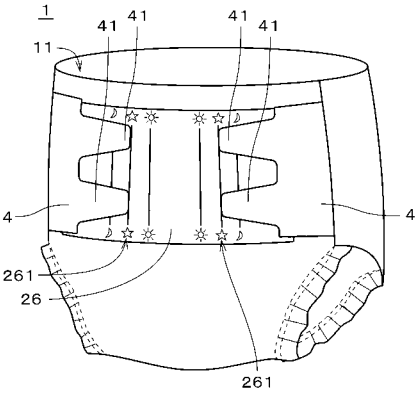
【図６】



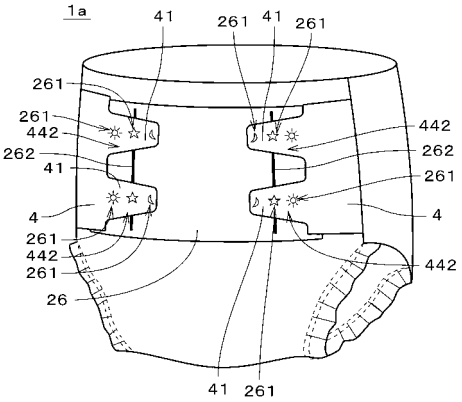
【図７】



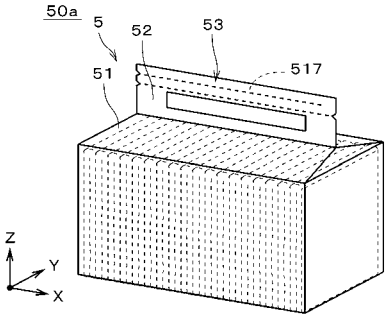
【図８】



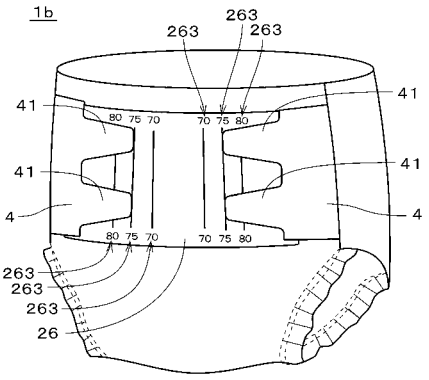
【図１０】



【図９】



【図１１】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
Ａ６１Ｆ　13/56　　(2006.01)		

(72)発明者　奥藤　さえ子
大阪市中央区瓦町１丁目６番１０号　株式会社リブドゥコーポレーション大阪本社内

Ｆターム(参考) 3B200 AA01 AA13 CB01 DA10 DA21 DE11 DE18
3E064 AB11 BC18 FA01 GA01 HB01 HB05 HJ02 HK01 HM01 HP02
3E067 AA12 AB83 AC03 BA12A CA04 EA01 EB02 EC02 EE12 EE21
FA01 FC01
3E068 AA22 AB02 AB03 AC07 BB12 BB17 CC22 CD01 CE05 DD02
DD40 DE11 DE13 EE25 EE34 EE40